

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002899		
法人名	株式会社 楽		
事業所名	グループホームらく楽		
所在地	豊中市稲津町3-5-5		
自己評価作成日	平成27年3月24日	評価結果市町村受理日	平成27年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎週図書館での映画鑑賞や図書館で本を借り読書ができるように支援を行っている。 ・地域で落語会、喫茶、音楽演奏会などある時は出かけては地域の方との交流を支援している。 ・身体の変化に合わせて食事の形態を変えその人にあつた食事を提供している。 ・浴槽に壁絵を描き銭湯気分が入浴が楽しめるようにしている。 ・定期的に地域のボランティアの舞踊などを鑑賞して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「利用者の立場になってひとり一人の意思・人格を尊重し、愛し、まもり、地域にも愛され・役立つ」ことを事業所の理念に掲げ、管理者と職員は一体となってその実践に取り組んでいる。日頃から管理者と職員のコミュニケーションは良く取れ、何でも気軽に意見・提案を率直に話し合い、管理者は積極的に運営に反映して職員のモチベーションの高揚とレベルアップに繋げている。ホームは利用者の終の棲家の考えの基に、手造りの美味しい食事の提供と恵まれた環境を活かして散歩や外出、レクリエーションを多く取り入れ健康の維持と気分転換を図り居心地よい生活が続けられるよう努めている。地元名士であった事業所開設時の自治会長以来、歴代自治会長や民生委員の全面的な協力を得て地域の清掃活動を始め地区行事に積極的に参加し、地域の一員として認知され完全に溶け込んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作る時には職員の意見を聞き、フロアに掲示している。全体会議や朝礼を利用し、管理者は、地域密着の意義を話している。	「愛します、まもります」「明るく・楽しく……地域に愛され役立つホームを目指す」という理念を職員皆で作成し、玄関、事務所、フロアに掲示している。管理者が全体会議や朝礼時に理念に沿った訓話をし、職員は日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合に参加し地域との交流を常に行っている。地域のボランティアに日にちを決め毎月来ていただいている。	自治会長や民生委員等の協力で地域と緊密な交流が図れている。公民館での手芸教室、ふれあい喫茶、図書館での映画会、寺での落語会や自治会の清掃活動に参加している。ホームの夏祭り等に地域の人を招待している。近所の人から季節の野菜を持参してくれる程の緊密な関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合で認知症を理解して頂くためにホームでの生活の様子をビデオで紹介した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会では、認知症への具体的な接し方や便秘、介護制度、医療との連携、研修について報告している。欠席者には会議議事録の送付を行っている。	市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、家主及び利用者代表等が出席して、2ヶ月毎に開催している。毎回事前に議題を通知し、双方向の意見交換が行われ運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会参加時に質問などで協力して頂いている。利用者の要介護申請などを行っている。	高齢施策課や生活福祉課の担当者と密に連絡・相談し、アドバイスや情報を得ている。介護事業所連絡会と地域福祉ネットワーク会議にも参加して、意見交換し運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作り、身体拘束廃止委員会を開催し、スタッフ全員に周知するようにしている。施設内外の研修も行っている。	毎年、「身体拘束マニュアル」を基に施設内外の研修で正しく理解して、身体拘束をしないケアに努めている。見守りを多くして日中は玄関も施錠せず自由な家庭的な場を提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を開き、グループワークを行うなど職員全員が虐待について考えられる機会をつくり、防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修や講習参加の他社内勉強会でも話合うようにしている。活用に関しては家族などと十分話し合い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を全部読み解り易く説明している。また質問等についてはその都度尋ねて理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関などに利用者、家族の苦情箱を設置している。第三者委員会の氏名連絡先を提示している。苦情に関しては受付窓口を設置し、改善、苦情説明が行えるようにしている。	家族の訪問時に介護経過記録等を基に、ホームでの暮らしぶりや健康状態を説明して意見・要望を聴いている。また「らく楽便り」と毎月の介護記録にコメントを添えた便りを届け、家族の意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議では、意見が出やすい環境を作り、職員は管理者に毎日話せる状態で、意見等の言いやすい環境を作っている。代表はホームに来た際スタッフに声を掛け会話できるようにし、働く意欲の向上や介護の質の向上を図っている。	日頃から管理者と職員のコミュニケーションは良く取れていて、気軽に率直に意見交換している。職員の提案で災害時の役割担当札を身につける。又、行事役割分担を決める等、意見を反映している。身体拘束廃止、感染症対策委員会等を設置して職員の意欲と介護の質の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価の記入で個人が努力している事を把握し、職員に向上心がもてるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画表を作り、社内勉強会を1ヶ月1回行っている。外部研修は、大阪府介護研修センターなど公的な研修を経験年数を中心に考え適任者が受けれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは公的会合の後などに意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの中で本人、希望や不安を聞担当スタッフ全員でセンター方式を記入し本人との関係づくりと不安解消を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が見学に来られた際、不安、要望を聞いてから入所決定をして頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院の面談や居宅に出向き今の状況や疾患、家族の意向を早めに知ることに対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が入居者ではなく仲間の認識の下で生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時家族に日頃の様子を伝えるなどの関わりを持ち、遠慮なく話のできる状態を作っている。一方的にならないよう家族の考えも聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達の家などに出かける時は職員が同行し馴染みの関係を支援している。	現役時代の友人や住まいの近所の知人が訪ねてくるのを大事にもてなしている。友達を訪ねたり食事や礼拝、美容院・理髪店、お寺等に行く時職員がホームの車で送迎して馴染みの関係が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階の利用者が2階で会話を楽しんでいる。又2階から1階へと降りカラオケを楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への見舞いや移転先に面会に行き家族の相談などの支援を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に入所時は話しをする時間を多くとり、なにができるのか不安の要素はあるのかなどスタッフが共有し検討している。本人が一番良いホームでの生活を提供できるようにしている。	入所前に聴取した本人・家族の意向を基にその後の日々の支援の中で特に散歩や入浴等1対1のケアで気分のほぐれている時じっくりと聴き取るように努めている。新たな希望・意向を皆で共有しケアに活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃のケアの中で本人が瞬間的にだす言葉や行動からくみ取り馴染みの暮らしや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の申し送りで現状の把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、医師、看護師と共にモニタリングや担当者会議を開きそれぞれの意見を取り入れて作成している。	毎月モニタリングとカンファレンスを行い、原則3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者・家族の意向と医師・看護師の意見を取り入れて関係者がカンファレンスを行って本人の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を職員全員が確認し印を押すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が希望される時には病院に受診したり、忙しい時には同行している。医療や他施設とも柔軟に家族の希望を聞き、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近場の公園の活用や図書館での映画鑑賞などに資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を聞き、かかりつけ医などの受診は意向に添うよう心掛けている。	本人・家族の希望で従来のかかりつけ医・専門医を受診の場合も施設の車でケアマネジャーが同行して医師に経過を説明し、家族には結果報告をしている。普段は内科の協力医が2週おきに、歯科医は毎週往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に日頃の情報を伝えている。又疾患などで理解できないことなどは質問し理解している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にサマリーの提供や入院中に医師との面談を行い、退院の予定など聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、本人、家族に重度化、終末期の要望を聞き、同意書に署名捺印を頂いている。又意向が変わった際には変更の希望に添うようにしている。	入居時に、本人・家族に「事業所の重度化・終末期ケアに対する指針」を説明し、要望を聞き同意を得ている。病状の悪化時には主治医が家族に説明し、出来るだけ意向に沿うように支援している。基本的に看取りはしないが、過去看取りをした経験がある。	緊急時の医療連携体制の現状から看取りを行える状況には無いが、過去家族の強い要望とホームの思いで看取りとなった経緯があり、今後入居者の介護度の進行から、将来に向けて主治医に相談の上、職員とも話し合われたら如何か。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員普通救急救命講習受講者。1年に一度必ず受ける機会を設け、3年が経てば新たに受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定や昼間の想定をし、消防署立ち合いの訓練は1年2回地域の参加と協力を文書配布し、実行している。運営委員会で自治会長に参加を呼びかけをしている。	法令で定められた年2回の訓練の他、各種災害を想定した繰り返しの実践訓練を増やしている。家具の固定化と高所からの落下防止策も施している。運営推進会議を活用しての地域の協力体制も構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に笑顔で対応し、トイレなどでは耳元で声を掛けている。研修や勉強会でプライバシー保護の取り組みを行っている。	人権・尊厳・接遇等の研修を行い一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として尊敬の念と親しみを込めた態度・言葉使いで対応している。不適切な対応に気付いたら職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて対応を行っている。居室に訪問したり、声掛けの工夫をし、自分で決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の希望や入浴時間の希望又朝食の時間は個々に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は、スカーフや帽子などの小物の使い方や男性の髭剃りを毎日声掛けしている。美容院にも同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食器やお箸を使用している。好みの人の席の近くで食べられるようにしている。昼夜は職員同席し、ゆっくり話ながら食事をし、テーブル拭きや片づけも一緒にしている。	昼食と夕食は調理の得意な職員が利用者の好みや体調を参考に献立、食材買出し、調理を行っている。利用者はできる範囲で準備や後片付けを手伝っている。職員も話し掛け・介助しながら楽しく一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は医師と相談し個々の疾患に合った量の調整や個々の好みの物で提供している。又食事は個々に合った調理の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1週間に1回歯科受診し歯石ケアや夜間義歯はポリドントに浸けている。3食後ケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは場所が分かるよう表示をしている。表情や行動を把握し、個別に排泄パターンを把握するよう努めている。失禁された時には配慮ある対応をしている。	個人別に排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう自立に向けた支援を行っている。昼間は殆どどの利用者が布パンツを着用し、快適な生活を過ごしている人が多い。夜間は2時間ごとに声かけ・巡回を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや冷水ケアを行っている 又水分摂取量も個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽の壁に絵を描き、銭湯気分に入れるように支援している。又一度拒否の場合は時間を空け本人のタイミングで入浴出来るようにしている。	基本的に週3回の入浴を支援している。嫌がる人には、時間・人を替え声かけの工夫をして入浴を勧めている。個々の好みの湯温で、季節によってゆず湯、菖蒲湯を楽しんでいる。浴槽の壁面に絵を描き銭湯気分を醸し出す工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を個別に行い生活習慣に合わせている。又夜間睡眠が不足時は10時まで休息を取らせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤説明書をファイルにして職員が閲覧できるように身近な所に配置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物仕分けや畳など利用者の力の合わせてた役割をして頂いている。又買い物などで気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外食や図書館での映画鑑賞や地域の手芸教室、落語会などに参加できるように支援している。	天気の良い日は、近くの桜公園、パナソニック公園、住吉神社や天竺川沿いを散歩して四季折々の季節感を味わい外気に触れ五感を刺激する支援をしている。毎週日曜日に行われる高川図書館での映画鑑賞に行く支援もしている。家族・友人と食事に行く事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を持たせている。又買い物時には本人のサイフから支払をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員がダイヤルを押し家族や友人と会話している。又手紙の表は職員が書き手紙の投函には同行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる様に毎月壁絵を制作している。洗面所には観葉植物を置き癒しの空間を作っている。	玄関、廊下、リビング等の共用空間は明るくゆったりして、季節の置物や花と観葉植物を置き、壁には季節感が判る利用者との協同作品等を飾っている。温・湿度管理も徹底し、居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側を作り利用者同士語らいのスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな本や音楽のCD、仏壇、信仰している宗教に関連したものを居室に置いている。	居室はロッカー、エアコン、床暖房、カーテン、ナースコール、スプリンクラーが設置されている。利用者は馴染みのベッド、寝具、テレビ、小物、家族の写真、仏壇等思い思いの物を持ち込んで本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症状に合わせて戸に飾り物の目印を付けている。		